

文化・芸術

— アヴァンギャルド (avant-garde) の作品から —

先端に立つという「前衛」を意味するアヴァンギャルド (フランス語) とは、アートの分野では、新時代にふさわしい新しい表現を試みる画家たち、そして運動を意味します。

第1次世界大戦後のフランスでは、エコール・ド・パリの華やきのなかから、シュールレアリスム (超現実主義) の運動が生まれました。これは、20世紀初頭のフロイトの精神分析から、自我の存在と無意識の発見をもとに、さらに人間の精神の自由と想像力に可能性を見いだそうとする文学、芸術の運動でした。

中でも、ドイツ出身の画家マックス・エルンスト (1891～1976年) は、画面にさまざまなモノを貼りつけるコラージュ、木片などのモノの表面をこすってその模様を生かす技法 (フロッターージュ) などをつかって幻想性豊かな世界を表現しました。手前が「サン・モリッツで冬を過ごしたいと願う愛すべき宇宙飛行士」 (1968年)、奥の部屋には「森 (月光の中のモミの木)」 (1927年) が展示中です。

《名画の扉》

大川美術館展示風景から

